



跳躍種目における吹流し旗の見方(味方)



跳躍の試合において必ず設置されているものは、風を読むために必要な「吹流し旗」です。どの試合においても設置されます。記録会～全国大会・世界大会など大会の規模は関係ありません。「吹流し旗」をうまく活用することで自分の記録に活かしていきましょう。

【公認記録を確保するには】

◎風力が、+2.0 以上にならないこと。+2.0 までが公認記録、+2.1 以上が参考記録です。(短距離・跳躍ともに)

◎全国大会の参加記録は公認記録が必須

※向風の中の競技と追風の中の競技は、当然追風の中で競技をする方が記録はいいです。



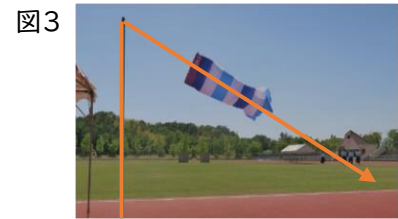
【吹流し旗の見方】 ※PT=ポイント

図2と図3は矢印の角度が大事

図1は風速±0.0

図2は+1.0 前後

図3は+2.0 前後



PT 旗が動いていない

矢印の角度が 25 度程度

旗(矢印)の角度が 45 度程度

跳躍可能時間1分以内で、吹流し旗の角度を参考にしながら追風を味方にしよう。

試合時の吹流し旗の見分け方と判断

自らの走りの特性も考慮しながら、判断が必要である。

無風を基準に、+1.0=10cm +2.0=20cm 程度変化させる

例1) 1本目と2本目で同じ風力だった場合

○1本目が有効試技の時は、2本目も同じ場所からスタートする。または、踏み切る場所を修正したい場合は修正分を調節する。

○1本目が無効試技の時は、板(LJ・TJ)や場所(HJ・PV)の修正分をずらしてスタートする。



例2) 1本目が無風で2本目が+2.0 程度の風力だった場合

○1本目が有効試技の時は、2本目はだいたい 20cm 下げてスタートをする。または1本目の踏み切る位置を修正したうえで、修正場所から 20cm 下げてスタートする。

○1本目が無効試技の時は、板(LJ・TJ)や場所(HJ・PV)の修正分をずらしてそこから 20cm 下げてスタートする。

(HJは第一・第二マークそれぞれを修正する)

(PVはアップライトも合わせる必要があるため 20cm 以上変化させる場合もある)

例3) 1本目が+2.0 程度の風力で2本目が無風だった場合

○1本目が有効試技の時は、2本目はだいたい 20cm 前に出してスタートをする。または1本目の踏み切る位置を修正したうえで、修正場所から 20cm 前に出してスタートをする。

○1本目が無効試技の時は、板(LJ・TJ)や場所(HJ・PV)の修正分をずらしそこから 20cm 前に出してスタートをする。

(HJは第一・第二マークそれぞれを修正する)

(PVはアップライトも合わせる必要があるため 20cm 以上変化させる場合もある)



PT

(PV)

風力の強弱によって、ポールを上げ下げするか、握る位置を調整する。等有り! ポールの特性を普段から掴むことも勝敗の鍵